

2011.4.22 「バラマキを放置し、年金を奪う菅補正予算」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今朝の閣議でようやく補正予算が閣議決定されたことが報道されました。政府首脳は5月の連休中も国会を開いて、補正予算を通し、災害復旧復興をしようと考えているのでしょう。しかし我々自民党は、もっと早くからこの補正予算を提出するように求めて参りました。喫緊にしなければならないのは、壊れた道路や橋、港湾など交通インフラの復旧で、次いで被災者のための仮設住宅を建設など、やるべきことは大体決まっているわけです。そして、問題は財源なのですが、この話をまとめるのに内閣で時間がかかったようです。

私たちは今回、被災地の復興を最優先しなければなりませんから、この補正予算に賛成せざるを得ませんが、財源の決め方には大変不満であります。それは彼らが一番大きな財源としている4兆円のうち2.5兆円をいわゆる年金の国庫負担割合を3分の1から2分の1にするようにした分を付け替えたからです。では、いわゆる年金の基礎年金部分を国庫で2分の1を負担するというのは止めたのかと言え、その法律もまだ効力があります。更に3分の1のままで良いと思う国民はいないはずです。つまり、この2.5兆円を付け替えたということは帳簿上の話であって、全く財源として正当なものではないのです。

それではどのように財源を捻出するのかといえば、国債か税の二つしかありません。しかしその前に私たちが整理しなければならないのは所謂、子ども手

当なのです。この子ども手当を先日の国会で、上乗せするのを諦めて、とりあえず半年だけ行う修正された法案が通ってしまいました。我々は子ども手当それ自体に反対しているわけではありますが、元々彼らは子ども手当を半年どころか未来永劫続けてそのうえプラスアルファを上乗せしていくと言っていました。しかし実際は未来永劫続けていく法律はなく、それを年度分が終わったらその都度延長する形の法律しか作っていなかったのです。その前提として予算を作っていたわけではありますが、その予算を一年分作っておきながら、結果的には半年しか行わないということになっています。そうなりますと、その分の予算自体が空いておりますから、それをもう一度戻して補正予算にしていこうとをしなければなりません、その不都合も直しておりません。それから先程も申し上げましたように年金から勝手に予算を付け替えているのですが、それは財源にならないわけです。結局は年金の国庫補助を3分の1のままにしておくことに法律上なっていないわけですから、これも結局後になってから財源が枯渇して、どこからか補てんしなければなりません。つまり、補正予算を作る現段階から矛盾が山積しているわけです。

瓦礫の撤去や道路の復旧、仮設住宅の建設等、多額の予算が必要です。しかしこれらは必要な支出であり、すぐに必要です。それにもかかわらず、バラマキを放置し、社会保障は税の一体改革と言っておきながらその一番大事な部分を見捨て、財源として正当でないものを充てる出鱈目な政策を行っているわ

けです。

このように民主党政権というのは補正予算一つ取り上げましても言っていることと中身が矛盾していますから、我々が追求しないととんでもない予算が通ってしまいます。しかし今回は、この補正予算を止めてしまうと瓦礫の撤去を行えなくなってしまうので、賛成せざるを得ません。以上のように、彼らはすでに予算を作って執行することや、国家全体の税と財源の関係、また社会保障の関係を考える能力も資格も失ってしまっているということなのです。恐らく連休中も補正予算の審議を行うということになるでしょう。テレビでも放送されると思いますからぜひ見て頂きたいと思います。とにかく民主党は付け刃で出鱈目なことばかりを行っていることを皆様方にお伝えして、本日のビデオレターを終わらせて頂きます。ありがとうございました。